

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第66回放送の概要 (2013年6月29日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

1. オープニング

本日はさくらさん、あこちゃんがお休みのため、小室こゆみさん (64 陽会) がMCをつとめます。今日は6月15日に開催された「武陽人100年の集い」を取り上げます。武陽会は旧制県立第二神戸中学校以来の兵庫高校を含む同窓会の名前で、他校のように新制〇〇生という呼び方はあまりせずに、〇〇陽会という呼び方をしています。

2. ゲストコーナー (1): 小林正美さん (64 陽会)、岡野雅昭さん (64 陽会)、妹尾優香さん (64 陽会)、中谷直子さん (64 陽会)、玉田圭司さん (75 陽会)、上野隆弘さん (75 陽会)

「武陽人100年の集い」を開催したのは、旧制二中の第1回卒業生 (1 陽会) から数えて、今年3月の兵庫高校卒業生が100陽会にあたることを祝して、記念式典、記念講演を行い、またホームカミングデイとして母校に集まり盛り上がりましょうという企画をたもので、大人の文化祭をイメージした交流会も開催された。

記念式典では歴史を振り返りながらお祝いをし、記念講演では、戦前最後の沖縄県知事の島田叡大先輩についてお話を伺い、また現役生を含む学年主体のブースを出した。第1回としては成功と考えている。当日の参加者は、受付で記帳した人が約500名、殆ど記帳していない当日スタッフは160名以上、式典に参加した現役生160名で800名以上の参加となった。午後には平常通りのクラブ活動をしてもらったのでかなりの人数になった。記帳された中での最高齢は30陽会の方で、最も参加者の多かったのは55陽会であった。

今回の式典の中心となる沖縄に関しては、沖縄二中の那覇高校とは、兵庫高校と同じ位置付けということで、以前より沖縄の方は島田杯の関係もあり、事あるごとに兵庫高校を訪問され、合掌の碑を見られたりしているが、こちらからは訪問する機会が少なかった。

那覇高校には城岳同窓会があり、このたび会長、副会長が来校された。城岳同窓会は以前より武陽会、



兵庫高校と接点を持ちたいとの意向があったが、これまでは具体的行動にならなかった。昨年7月8日に武陽会有志で開催した「沖縄の島守を想うタベ」に沖縄の方も招待し、この時初めて具体的な接点生まれ、今年3月には沖縄から島田さんの遺骨捜索活動への参加要請を受け、武陽会として初めて参加した。この事が急速に接近するきっかけとなり、本日の放送出席者では、小林さん、小室さん、玉田さんの3名が参加した。



また今年6月23日の沖縄慰霊の日（沖縄戦最終の日）には、安倍首相、外務大臣、防衛大臣、駐日大使が出席されたが、島田さんを祀っている島守の塔には来られなかった。武陽会からは、小林さん、玉田さんが参列し、摩文仁の丘にある兵庫県ののじぎくの塔にお参りしたあと、島守の塔で焼香した。現地は非常に熱く、服装をどうすべきか困った。沖縄の方は長袖のかりゆしで、自分達は半袖シャツにネクタイで参列した。慰霊の日には城岳同窓会の方は、学徒動員で亡くなった方の慰霊も行っていた。この慰霊を通じ、那覇高校と兵庫高校が文武両道という観点で非常に似通っていると感じた。



那覇高校



二中健児の塔



島守の塔



島守の塔慰霊祭

第14代最高裁判所長官山口繁さん(38陽会)の記念講演では、「至誠の人―戦前最後の沖縄県知事 島田 勲」と題し、話されたが、日本人の精神性の気高さ、ものの考え方、芸術文化面に対するスタンスがアジアの中でも少し違い、そして島田さんの40数年の人生を辿ると、その道筋にあるもの、支えてきたもの、自決の真相はどうかというのがあるが、そこに到達した気持ちの持ち方を養ったのは、原点である二中である。山口さんが講演タイトルに付けた「至誠の人」はそのことを指している。城岳同窓会との協定を結ぶにあたって、協定文書のタイトルは特色あるものになりたいと思い、「城岳・武陽至誠友好交流協定」とさせてもらった。山口さんの講演DVDは作成することを計画している。



3. ミュージック：さとうきび畑（寺島尚彦作詞 ソプラノ 寺島夕紗子）

本土復帰前の1964年沖縄訪問した寺島尚彦さんが、摩文仁の丘で着想したもので、歌詞は11連。2012年7月8日、朝日ホールで開催された「沖縄の島守を想う夕べ」において寺島夕紗子さんが歌われた。



4. ゲストコーナー（2）

6月15日の午後は交流会が開催され、ゆうかり放送委員会はFMわいわいと共同でブースを出展した。ブースには多くの武陽人が来られるので、「あなたにとって武陽会とは？」という質問を来場者に行い、インタビュー結果を本日放送します。現役生、城岳同窓会の方を含め31名の方にお答え頂いています。

あなたにとって武陽会とは？

(1) 向山和子さん(41陽会)

10歳年上の兄は二中、5歳年上の兄は兵庫高校を出ているので、物心ついたころから武陽会の中で育ってきたので、武陽会は命の次に大事なものです。

(2) 上川勝彦さん (42 陽会)

武陽会は心の故郷です。今 42 陽会の会長で、昨年 10 月 26 日にクラウンホテルで第 10 回の同窓会を開催、次は卒業 60 周年を記念した同窓会を開催したい。今日新校舎を見て感慨深いものがある。

(3) 土岐真澄さん (44 陽会)

クラスが 3 年間持ち上がりでした。兵庫高校は生涯を通してうれしい、楽しく思う存在。5 年、10 年あいていても、会えば話がはずみ、青春そのもの。

(4) 稲岡八二子さん (44 陽会)

久しぶりに母校の新校舎を見て懐かしさを感じ、心の故郷です。長い人生を歩いてきたが、兵庫の 3 年が基本になっている。懐かしさで涙が出てくる。

(5) 太田颯衣さん (47 陽会)

高校の 3 年間はひたすら器械体操に明け暮れていた。卒業後は東京在住で、同期の人とは東京武陽会を通して交流し、楽しい老後を過ごしている。

(6) 小林貞五さん (47 陽会)

在学中は生徒会活動をしていたので、青春の思い出が一杯残っている。50 年経った今は東京武陽会の世話人をしているので、武陽会は人生の財産です。

(7) 吉川弓子さん (61 陽会)

武陽会は青春そのものです。

(8) 榎本浩二さん (62 陽会)

武陽会は家族、仕事に次いで、3 番目の人生です。

(9) 有本典子さん (64 陽会)

今は大阪に住んでいるが、神戸に戻ると武陽会は青春そのもので、戻るとすぐに昔に戻れる場所です。

(10) 妹尾優香さん (64 陽会)

武陽会は高校時代の自分と現在の自分を結ぶ一つのツールです。

(11) 中谷直子さん (64 陽会)

心の故郷のようなものと感じている。同期生だけでなく、職場で出会う先輩、後輩の武陽人と、一瞬にして同じ時を過ごすことが出来ます。

(12) 山口昭彦さん (64 陽会)

最近沖縄にはまっており、将来沖縄に住みたいと思っている。そのように思う理由は、島田知事の島守の話聞き、兵庫高校は独特のものをもっていると感じ、あらためて高校の事を思い返した。

(13) 井上美紀さん (69 陽会)

吹奏学部の同級生が演奏するので聞きに来ました。

(14) 沖本祥子さん (72 陽会)

武陽会は青春の 1 ページで、勉強をした記憶はなく、ソフトボールに明け暮れた高校時代であった。しかしその事が今の仕事に生きており、いつも良かったと思っている。

(15) 中村理恵子さん (72 陽会)

武陽通信が来た時に、楽しかった友達との青春時代を思い出させてくれる、日常の中でタイムトリ



44 陽会・47 陽会



64 陽会

ップ出来るところである。

(16) 北田烈さん (74 陽会)

父、弟、叔父も武陽会で、今年 45 才になるこの年になって出身校の価値を感じてきた。

(17) 阿部宏美さん (74 陽会)

今は大阪在住のため兵庫高校を訪ねる機会は少ないが、学校行事で先輩が後輩に授業をする、「キャリアサポーターに話を聞く会」があり、フリーアナウンサーとして仕事内容について 1 年生に授業をしています。年 1 回母校に帰る機会があると心が豊かになり、母校はいいなと本当に思います。これからも益々元気な兵庫高校であってほしいと思う。そして今日は元気な多くの先輩に会えたのがいい経験でした。

(18) 有馬隆行さん (81 陽会)

武陽会は卒業後に新たに高校に戻れる、懐かしい気持ちが蘇る会です。

(19) 打越奈都子さん (81 陽会)

兵庫高校は青春です。今回の集いも同級生が教えてくれて皆で一緒に行くことになりました。引っ越して住所がわからなくなっても誰かから連絡が来るなど、繋がりがすごくあるのを感じる。兵庫高校生は熱い思いがある。

(20) 森啓子さん (81 陽会)

武陽会の人々は皆母校に誇りを持ち、生き生きとしている。それは高校時代をそれだけ楽しく過ごしたからで、自分も部活で 365 日中、360 日学校にいたし、青春の殆どを兵庫高校で過ごした。仲間とは毎年飲み会をしているし、その都度高校時代に戻れる心の安らぎの場所である。これから先、年をとっても自分の居場所がある素晴らしい会である。

(21) 杜かおるさん (81 陽会)

武陽会は卒業してしばらくは考えたことはなかったが、20 年経つと素晴らしい時間を過ごしたことが段々分ってきて、今はその時に知り合った同級生、先輩、後輩と仲良くしてもらえるのが財産であり、宝物である。

(22) 津村美妃さん (90 陽会)

卒業してからの繋がりが非常に深くなっていくありがたい学校である。卒業後現役時代に出会わなかった人との繋がりが、どんどん広がっていくので、卒業後の方がどんどん楽しくなっていく、そんな高校と思う。

(23) 藤原英里子さん (93 陽会)

武陽会は第二の家である。自分にとって兵庫高校は原点であり、ここでの思い出が今の自分の一部になっている、これからもずっと大切にしていきたい第二の家です。

(24) 麻野間美奈さん (100 陽会)

武陽会は、自分の個性を伸ばすことが出来る環境を作ってくれたもの。今活発な自分があるのは、自由な校風で個性を伸ばすことが出来たからである。

(25) 野田千佳さん (101 陽会：現役)

兵庫高校は自分を成長させることが出来るとても素敵な場所である。

(26) 淡田夏都香さん (101 陽会：現役)



81 陽会



100 陽会 麻野間美奈さん

兵庫高校は色々な事に挑戦できる学校である。

(27) 渋谷このみさん (101 陽会 : 現役)

兵庫高校は一生の宝物です。

(28) 尾下克樹さん (101 陽会 : 現役)

兵庫高校が一番楽しい学校である。

(29) 土屋宏平さん (101 陽会 : 現役)

兵庫高校は行事に対する熱意が凄い。その熱意をそのまま勉強に持って行くという全員の決断で進学率を上げる高校である。

(30) 中山諒祐さん (101 陽会 : 現役)

兵庫高校は大学進学に選択肢が増える学校で、学校生活も行事、部活が沢山あるが皆一生懸命やっており、行事、部活、勉強を一生懸命頑張れる人が沢山いるのでとても充実した日々を過ごせる。

(31) 嘉数昇明さん (城岳同窓会)

武陽会の一員になったような感じで、今日は感動しています。武陽会と城岳同窓会が今後交流をより深めていく協定が出来たので大変感激しています。



城岳同窓会

次に本日のゲストにもお答え頂きました。

(32) 岡野雅昭さん (64 陽会)

卒業後 10 年以上経ってから武陽会を意識し始め、本日のインタビューを聞いて共感できるころが多く、自分の気持ちを再確認した。100 陽会の人々が自由にやらせてもらい、自分の個性を伸ばせたと言っていたが、これは自分達の世代と変わっていないことでうれしく思った。

(33) 小林正美さん (64 陽会)

武陽会は偉大な組織であると思っており、神戸では大きな力を持っている団体である。年をとると学生時代にはわからなかった島田さんの事をはじめ、学校の偉大さがだんだんわかってきた。人の繋がりの有難さを感じ、恩返しのできる気持ちで武陽会活動を続けていきたい。(小林さんは、武陽会の副理事長で神戸武陽会の会長である。)

(34) 玉田圭司さん (75 陽会)

武陽会の事務的な仕事をしており、自分の仕事より費やす時間が多い。卒業後の繋がりがどんどん増えており、最初は同期生徒の集まりから、次にきっかけで違う学年の人と繋がり、その後武陽会を意識するようになり、今は仕事、家族の次に頑張っています。武陽会活動は楽しいのでやっている。新しい知り合いが出来、大先輩から面白い話も聞ける。今回のイベントで今年卒業した 100 陽会から多くの方が手伝ってくれ、名物生徒会長にも会え、多くの繋がりが出来た。

(35) 上野隆弘さん (75 陽会)

父親は 36 陽会、4 人姉弟で姉 3 人全員武陽会のため、兵庫高校には当然入るものとして育った。兵庫高校では自由な 3 年間を過ごした。卒業するとこれからは始まりという感覚で玉田圭司さんと楽しんでいる。暖かくて優しい人が多い。

(36) 妹尾優香さん (64 陽会)

ご主人は 62 陽会で兵庫高校で出会い結婚した。

(37) 中谷直子さん (64 陽会)

このような場に初めて参加できたのも、武陽会の一員だったからで縁を感じている。1 年生の 2 学期に地理の時間を使って、2 学期間、何曜日かの 6 時間目に、グループを作りテーマを考えて自由研究する時間があった。10 人のグループで神戸港の研究をすることになり、その時間は先生に行く先を

言えば自由に出かけることが出来た。港湾局や貿易センタービルに行き、途中制服を来ているのでこの学校やなどよく聞かれた。兵庫高校と答えるとわしも兵庫やと言われ、今は女子も行っているのかと言われた。その後も行く先々で武陽会の人から、声をかけられ可愛がってもらった。



指ヨガ体験：講師三木文子さん（70 陽会）



49 陽会集合

7. 来月の予定

林五和夫さんにお越しいただき、8月10日封切の「少年H」についてお話を伺います。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com